

日本水環境学会第4回東北支部研究発表会報告

第9回 廃棄物資源循環学会東北支部合同企画

主催 東北支部 第4回研究発表会実行委員会および廃棄物資源循環学会東北支部
日時 2017年2月11日(土)
場所 東北大学青葉山キャンパス環境科学研究科本館2F大講義室及び1F展示スペース2
仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
参加人数 85人(水環境学会での受付登録55人)

報告概要

今回の支部研究発表会で2件の新たな取り組みをした。1つは、一部の学会員が重複する他学会東北支部との合同研究発表会の開催。もう1つは、東北地域で水環境保全活動・調査研究活動をしている非学会員のNPO・市民団体や高校生などに発表の機会を提供したことである。その結果、廃棄物資源循環学会東北支部(以下、廃棄物学会と略す)との合同研究発表会となったこと、非会員のNPO・市民団体から2件(うち口頭発表1件)、高校生による発表が15件(うち口頭発表3件)あった。また、発表形式は昨年から引きつづき、口頭とポスターの発表形式とした。

発表申込みは、廃棄物学会と併せて東北5県からあり、口頭発表24件(本学会11件)、ポスターセッション21件(本学会のみ、うち1件急病のため欠席)、参加者85人(うち学生・生徒38人)で開催された。また、東北支部顧問の江成敬次郎先生と中村玄正先生にご参加いただいた。座長は実行委員および支部長などに務めていただいた。本発表会は、学部生や若手研究者との交流や他学会員との交流、地域で活動されている市民との交流などを促すことも目的としており、口頭発表での質疑応答はもちろん、その後のポスターセッションは盛況であった。

口頭発表終了後、優秀発表者を選定するために参加者(社会人)に配布していた投票用紙を回収し、廃棄物学会と合同で最優秀発表賞と優秀発表賞を決定した。下記のとおり、社会人・大学院生の部から最優秀発表賞1件、優秀発表賞3件、学部・高校生の部からそれぞれ2件、3件、の合計9件が選ばれた。今回はポスターセッションからの表彰はしなかった。

ポスターセッション後に同一会場で開催された交流会には約60人が参加した。実行委員長から審査結果が公表され、両支部長から講評をいただいた。

第4回を準備するにあたり、支部幹事に開催方法についてアンケート調査を実施して、2月上旬で日程調整をした。その後、廃棄物学会との合同が提案され、今回の実施に至った。ただし、開催地については、支部セミナー開催が南東北なら、研究発表会は北東北で開催も考えていたので、他学会との合同企画を継続する場合、開催地をどうするかは今後の課題である。実施の方向性は学会員に支持いただいていると考えるが、運用方法についてはなお検討が必要である。

【一般・院生部門】

*印は廃棄物学会所属、○印は非学会員

最優秀発表賞

- ・堀越和也* 東北大学大学院環境科学研究科
「球状活性炭による尿素・クレアチニン・尿酸の除去」

優秀発表賞

- ・高橋春男○ みやぎ・環境とくらし・ネットワーク水部会
「『水の神さま』の調査と市民への発信」
- ・矢部修平* 株式会社社県南衛生工業(ハザカプラント研究所)
「コンポストを用いた硫化水素除去過程の微生物叢解析」
- ・廣雄高* 東北大学大学院工学研究科
「嫌気性MBRによる生ごみのメタン発酵における処理性能および膜ろ過特性の評価」

【学部生・高校生部門】

最優秀発表賞

- ・宮田芳徳 日本大学工学部土木工学科
「洗浄水自浄型トイレシステムのモニタリング調査」
- ・田中紀香〇 宮城県仙台二華高等学校
「アンコールクラウ村にバイオトイレを作れるか」

優秀発表賞

- ・池田拓矢* 東北工業大学工学部都市マネジメント学科
「家庭排水処理用人工湿地の処理性能」
- ・佐藤明音〇 宮城県仙台二華高等学校
「トンレサップ湖における雨水タンク設置の有用性について」
- ・角岡ひかり〇 宮城県仙台二華高等学校
「トンレサップ湖における、半透膜による浄水システムの構築は可能か」



発表会場の様子



ポスターセッション会場の様子



表彰者との記念撮影



交流会の準備を終えても熱心な意見交換が続いた

(文責)
実行委員長/東北工業大学 山田一裕